

日新輝道



東大阪市立日新高等学校

校長室通信 2022.06.01発行

返事！あいさつ！声！ダッシュ！！

「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」、
今すぐできることは「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」
「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を徹底し、日本一輝きを放つ学校を目指します！

高い山を登れば、さらにその向こうにある高い山が見える

「当たり前」の再確認 ～避難訓練を通して伝えたいこと～

先日、今年度初めての避難訓練を行いました。この避難訓練を実施するにあたり、大切なことがいくつかありますが、日常の「当たり前」と照らしあわせながら再確認してください。今回の生徒の皆さんの様子は、きっちりと行動できていて、いい加減な様子はありませんでした。生徒の皆さんの日常の「当たり前」の質が自然と高くなっていることが現れています。

「高い山を登れば、さらにその向こうにある高い山が見える。」という通り、日常の「当たり前」の質が磨かれてきているからこそ、さらに次の段階を見据えることができます。

練習のための練習ではなく、試合のための練習に取り組む

まずは、この避難訓練に際し、自らの取り組む姿勢がどれくらい本気であったかをチェックしてください。そうすれば自分の修正点が見えてきます。自分自身で修正点を明確にし、次回の訓練までに日常的にその修正点を意識し行動することができれば、次回の訓練はより質の高いものになります。0.1秒にこだわる意識をさらに高めましょう。常に機敏な行動を心がけ、それが習慣となって身につけていることはとても大切です。訓練の質が高くなるということは、「もしも」の備えに対して、よりすぐれた対応力が身についてきたということです。当然、自分や周りの仲間も含め、命を守る確率も高くなります。こうした訓練から見てくるように、日常の全校集会の様子や、日常の遅刻や授業移動等を含めた時間に対する意識の持ち方など、すべてが関連します。日頃、取り組んでいないことが、その時だけ偶然できるということはありません。意識し、訓練し、鍛錬すれば、100回に1回しかできなかったことが、やがて2回できるようになり、10回できるようになり、半分の50回できるようになり、やが



ては80回できるようになり、さらに進化します。日常の高い意識と訓練と鍛錬で、遠かった目標が近づいてきます。意識の低い練習に無駄に時間をかけているだけでは、なかなか目標は達成されません。日常の「当たり前」の質を高めて取り組むことが大切です。日新高校の生徒の皆さんには、常に高い意識で、試合のための練習に取り組んで欲しいと思っています。

試合はユニフォームの袖に腕を通した時から始まっている

今回の避難訓練は地震発生を想定したものでした。訓練開始前、運動場で待機していると、校舎の複数の教室から、担任の先生の指示が聞こえてきました。この時点で、今回の避難訓練は概ね、スムーズにできると感じました。何故なら、この時点で教室から担任の先生の声だけが聞こえてくるということは、生徒の皆さんはその指示をきっちり聞いている状態だということだからです。教頭先生から地震発生の放送があった直後、教室の机を動かす音が聞こえました。生徒のみなさんが机の下に頭を隠した状況です。その後、避難の指示があり運動場に集まりましたが、その様子もスムーズに進行されていました。もし、校舎から聞こえてくる声や音が、このような状況ではなく、生徒のみなさんの騒がしい声や乱れた音であったとしたら、運動場での様子も集合の様子も残念な結果であったでしょう。今年の全校集会の様子から、今回のスムーズな訓練は予測できました。「ユニフォームに袖を通した時から試合は始まっている。」という意味は、心の準備の様子や日常の取り組みの様子を表しています。これも日常の「当たり前」に関連する事柄です。

チームミーティングでの会話の違い、どちらが勝つ？

これは、野球の大会での球場の外でのあるチームの会話です。試合後に集合していたミーティングの場面で、その横を通った時に、たまたま聞こえてきた監督の言葉は次のようなものでした。「今日は、集合時間ギリギリの者がいた。明日は、集合時間の10分前には集まりなさい。遅れてきた者は試合には出しませんよ。」

これを聞きながら、それは「日常からできていないから、そうなるのではないのかな。」と思い、日頃の練習の様子を想像していました。そのチームには申し訳なかったのですが、引き締まらない試合の様子を見た後だったので、なんとなく納得もしていました。

この日、最後の第4試合に出場してきたチームは、試合中、ベンチもスタンドも一体となり、ずっと声が出ていました。グラウンドの選手の攻守交代も全力疾走で、とても気持ちの良い爽やかなチームでした。球場の外を片付けていると、そのチームがミーティングをしていました。「明日の練習場所は学校ではなく、時間も早いので気をつけてください。」と監督が言われた時に、選手の誰かが(もしかすれば主将)、「大丈夫です。」と間髪入れずに、気持ちよさそうな表情で答えたのです。後日、そのチームの監督さんとお話をしていると、日頃の練習の時から、集合時間を伝え、選手たちは当たり前のように自主的に早く集合し、準備をし、テーマパークの開門を持つかのようにワクワクしながらグラウンドが開くのを待っているそうです。

集合時間を告げられて、集合時間に間に合えばよいという感覚で毎日練習をしているチームと、少し早く来て準備をするのが当たり前となっているチームの「空気感」と選手の表情の違いを感じた一日でした。

「意識」が変われば「行動」が変わり、「行動」が変われば「習慣」が変わる。「習慣」が変われば「結果」が変わる。この大会の間、後者のチームを自然と応援していたものです。